

社説

3次元仮想社会

仮想社会といえはゲームの延長とみるむきもあるが、最近、科学や教育の分野での応用が広がりつつある。例えば「学際的な知」の拠点としてワークショップやサマースクールを組織してきた米国のKIRA（キラ）研究所は08年に3次元仮想社会「セカンドライフ」に「キラキャンパス」を設置。このほどキラジャパンも開設した。

キラ研はプリンストン高等研究所宇宙物理学教授・学際研究プログラム所長のハット・ピート氏やスタンフォード大学の認

知心理学者、ロジャー・シエバード氏が97年に設立した科学や哲学の研究機関。仮想キャンパス内のカフェで世界の科学者同士や一般の人々の交流、サイ

どとの交流を進めてきた。キラジャパン代表で米ニュースクール大学院社会学部長の池上英子教授は「科学を多元的、批判的に問い直し、他研究分野や世界

自由に議論する場ということ。キラ研は3次元仮想社会による科学・学問の進化という可能性を感じさせる。ピート教授は「仮想空間はこれからの国際的

科学・教育分野の応用に期待

エンスパークで共同研究と教育を行っている。米国ではセカンドライフの中で最も活発なサイトの一つとして知られている。

キラ研は「社会の中の科学」を理念に自然科学と社会科学な

の伝統が持っている叡智や洞察との関係性の中でとらえ直してみようと考えている」という。いささか抽象的だが、ようするに多様な分野の科学者やさまざまな職業の人たちが集まり、

な科学共同研究に不可欠のツール。研究者だけでなく世界の知を愛する人々が楽しみながら語らうコミュニケーションの輪が広がる場になりたい」という。地球温暖化の進行や生命に関

する科学技術など、現代は狭い学問領域、一国の学術界では解決できない問題、社会全体が理解し、考えなければならぬ課題が増えている。だが大学や研究機関で「学際」と呼ばれている割には専門領域の壁が厚い。

一方、仮想社会は専門家や素人といった区別はもとより、国籍や職業、社会的な地位、立場も関係ない、障害があっても動けない人も参加できる。まさにリアフリーの世界だ。また、遊

びの精神で知的世界に参加することも可能だ。狭い領域の研究今後の展開を注目したい。